

2016

## M2 カリキュラム

### 医療概論 II

### シラバス

平成 28 年 6 月 30 日～平成 28 年 7 月 7 日

2015 年度入学 第 42 回生用

2016 年編入学 編入学 16 回生用

## 医療概論Ⅱ 在宅ケア・行動科学入門など

Coordinator 前野哲博  
Sub-coordinator 高屋敷明由美  
前野貴美

**開講時期：M2 春学期 平成 28 年 6 月 30 日～7 月 7 日、平成 29 年 1 月 24 日**

### 1. コースの概要

A 在宅ケア、B 行動科学入門、C プロフェッショナルリズム、D 職種間連携から構成される。

A 在宅ケアは、将来、医療者として患者を支援する上で重要となる「在宅ケア：生活の場における医療」の実際を学ぶコースである。在宅ケアを受ける患者とその家族の生活を知り、医療関係スタッフが本人の気持ちに配慮しながらどのように患者の生活をサポートしているのかを理解しようとするところがある姿勢を身につけることをねらいとして、在宅医療を受けて生活するケースを通じて考え、また、在宅ケア、地域医療に関連した講義を参考にして具体的なケアプランを討論する。

B 行動科学入門では、医療者としてキャリアを切り開いていくため、ライフサイクルの観点から自身の状況を把握し、心身の健康をふりかえり、健康の維持向上に取り組むことをねらいとした講義（一部演習を含む）を行う。3 年次医療概論Ⅲで学ぶ行動科学の基礎編として位置づけている。

C プロフェッショナルリズムでは、医師のプロフェッショナルリズムについて考える参加型の演習を行い、医学生としての行動規範を自身で作成する。（4 年次の臨床実習開始時にその行動規範を振り返る機会を設けている。）

D 職種間連携は、医療における医療に携わる様々な職種の役割と連携を学ぶことを目的に、茨城県立医療大学保健医療学部 2 年生（看護学科、作業療法学科、理学療法学科、放射線技術科学学科）とともに Team-Based Learning 方式のケース討論を行う。

以下、本シラバスでは、A～C について記載する。D は 1 月 17 日 3 時限に実施する茨城県立医療大学合同 TBL オリエンテーションにおいて、ガイドおよび予習課題を配布する。

### 2. 個別学習目標（コースにおいて学んで欲しいこと）

- A
- 1) 在宅療養する患者や家族の気持ちを知る
  - 2) 在宅療養する患者の実際の生活を知る
  - 3) 在宅療養する患者に対する具体的な介護サービスを説明できる
  - 4) 介護保険制度におけるケアマネージャーの役割を説明できる
  - 5) 在宅ケアに関わる様々な職種の役割を説明できる
- B
- 1) 心のモデルと行動のメカニズムを説明できる
  - 2) 心の成長/ライフサイクルおよび家族の発達過程を説明できる
  - 3) ストレスの成り立ちを理解した上で、自身のストレス対処法提案し、生活の中で試みることができる
  - 4) 先輩医師のワークライフバランスのと리카た、考え方に触れ、将来の、医師のキャリアビジョンを描くことができる
- C
- 1) 医師のプロフェッショナルリズムの構成を学び、今後、医学生として自分のとるべき行動規範を考え、述べる

### 3. リソースパーソン

自習やグループ学習で疑問が解決しない時など、積極的に活用して下さい。

教員名

連絡先メールアドレス

前野哲博（総合診療科、医学医療系地域医療教育学 教授）

高屋敷明由美（総合診療科、医学医療系地域医療教育学 講師）

大塚貴博（明戸大塚医院 院長、筑波総合診療グループ）  
横谷省治（総合診療科、北茨城地域医療研修ステーション 講師）  
浜野淳（総合診療科、医療連携患者相談センター 講師）  
吉本尚（総合診療科、講師）  
山海知子（疫学・予防医学、医学医療系 准教授）

#### 4. 学習の進め方

##### オリエンテーション・症例提示（6月30日 3時限）（担当：高屋敷 明由美）

医学類のカリキュラムにおける医療概論Ⅱ全体の位置づけ、医療概論Ⅱのねらい、進め方、評価などをお話します。引き続き、今回のケースの紹介を行います。

##### **A 在宅ケア**

医療概論Ⅱの事例提示などの進め方は、医学の基礎コースとは異なります。

- ・ 30日オリエンテーションに引き続き、教室でシナリオのケース紹介があります。
- ・ シナリオに追加してケースについて知りたいことについて、7月1日2・3時限の質問タイムで実際の担当医がグループを巡回した際に質問することができます。
- ・ 7月5日の全体発表は、2,3時限連続で行います（昼休みをはさみず）。3教室に分かれて同時並行で行い、発表終了後に臨床講義室Cに集合して、担当医による総括を行います。

##### コアタイム1（6月30日 5時限）

各グループで、オリエンテーションの指示に従い討論をして下さい。

##### コアタイム1終了後グループワーク（6月30日 16時30分～）

コアタイム1終了時に配布された資料に基づき、ケースに関してシナリオの患者さん・家族へ必要なサポートの方法を検討するために、どんな情報（患者さんに関する情報、地域の医療保健福祉に関するリソースなど）が必要かについて、討論を進めて下さい。翌日の質問タイムで担当医に聞きたいことを質問項目リストに記し、30日17時30分までに、高屋敷明由美のメールアドレス（3階ラウンジ）に提出してください。

\*質問はケースに関すること（患者さんや家族に関すること、または医療チーム・他の介護福祉スタッフのこと）に限ります。介護保険制度など一般的な項目は自習して下さい。

##### ケースに関する質疑応答（7月1日2・3時限 各テュートリアル室）

各グループ10分間ずつ担当医：大塚先生にケースに関する質問ができます。各グループの質問予定時刻は下記の通りですが、多少前後することがあります。メンバー全員そろって各テュートリアル部屋で待機して下さい。（各グループで出席をとります）

10時10分～10時20分	18グループ
10時20分～10時30分	17グループ
（中略）	
11時20分～11時30分	11グループ
11時30分～11時40分	10グループ
（10分休憩）	
11時50分～12時00分	9グループ
（中略）	
13時10分～13時20分	1グループ

##### コアタイム2（7月1日 5時限）

まず、コアタイム1以降のグループ学習や自習の結果を、ケースに関する質疑応答で得た情報も含めて、5分程度で代表者がテューターにプレゼンテーションして下さい。

その後、各自が勉強した事や担当医から得たケースに関する情報を元に、どんなサポートができるか、討論を進めて下さい。「コアタイム2提出シート」に討論の概要を記入して高屋敷明由美のメールアドレスまで提出してください。

更に知りたい情報が生じた場合には、4日16時まで担当医の大塚先生（リソースパーソン参照）にメールで質問できます。

### グループ学習（7月4日5時限）

コアタイム2で提示された課題に従い、グループの発表に向けての討論を行ってください。各グループの個性が出ている発表を期待します（発表の予行を行い、必ず8分以内でプレゼンテーションできるように練習してください）。

### 全体発表会（7月5日2時限）（担当：大塚 貴博、高屋敷 明由美、荒牧 まいえ）

場所：学群棟3階304（1～6グループ）、臨床講義室C（7～12グループ）、臨床講義室B（13～18グループ）

当日、司会とタイムキーパーを指名します。発表8分質疑応答3分です。

### 総括（7月5日11時35分～12時15分）（担当：大塚 貴博）

場所：臨床講義室C

### レポート作成 7月6日1時限

#### 在宅ケアに関する講義一覧

	学習項目	担当教員	Keywords
1	高齢者の在宅緩和ケア	濱野 淳	緩和ケア、患者の生活、自律、多様性
2	家庭医療とは	横谷 省治	家庭医療、患者中心の医療
3	地域医療の現状と課題	前野 哲博	プライマリ・ケア、医師の偏在
4	地域医療の将来	前野 哲博	地域包括ケアシステム、地域医療構想
5	在宅ケアにおける職種間連携	山本 由布、 吉本 尚	多職種連携、職種理解、相互理解

#### B行動科学入門

ねらいは、前述（1ページの1. コースの概要）のとおり。下記の講義に参加した上で、夏期休暇の課題として、行動科学入門のテーマである自身のストレスマネジメントの実践を行い、レポートを作成する。

#### 行動科学入門に関する講義一覧

	学習項目	担当教員	Keywords
1	心のモデルと行動の成り立ち	山海 知子	行動科学、行動の成り立ち、動機付け
2	ストレスのメカニズム	山海 知子	ストレスサー、ストレス反応
3	ストレスマネジメント	山海 知子	ストレスコーピング、ソーシャルサポート、セルフケア
4	医師のワークライフバランス	瀬尾 恵美子	キャリア、ワークライフバランス
5	ライフサイクルにおける青年期の問題	吉本 尚	ライフスタイル、青年期の問題行動、対人関係
6	ライフサイクルと心の発達	横谷 省治	家族の発達段階、ライフサイクル

#### Cプロフェッショナリズム

社会から医師に期待されるプロフェッショナリズムについて理解した上で、医学生としてどのような行動をとるべきか、具体的なケースについて考え討論します。

\*講義開始前に一人一つクリッカーを配布します。

#### プロフェッショナリズムに関する講義一覧

	学習項目	担当教員	Keywords
1	医師のプロフェッショナリズム	高屋敷明由美	プロフェッショナリズム、医療倫理、利益相反

## 5. 参考資料

チャレンジ!多職種連携(在宅ケア版)(コアタイム1でグループに2部ずつ配布予定)  
埼玉県熊谷市の介護保険資料(コアタイム1でグループに1部ずつ配布、熊谷市HPより入手可能)  
医療の行動科学I 医療行動科学のためのミニマムサイコロジー 山田富美雄編 北大路書房

## 6. 成績評価

レポート(後述)提出状況、内容 \*締め切り日に提出のない場合にはD判定とします  
チューターによる評価表  
コアタイム1~2提出シート・グループ発表  
自己評価表の提出状況 により評価します。

### \* レポートについて

#### A 在宅ケア

締め切り:7月8日(金)12時 教務前レポートボックス(総括開始前は受け付けない)

PBL テュートリアルでの将来に関する討論および関係する講義を通して学んだことの中から  
1) 最も印象に残ったこと および 2) 将来自分が医師として働く時にこころがきたいことの2点  
を含めて、コアタイム・自習・グループ討論で学んだことをまとめてください(ワープロソフトを用  
い、10.5フォントでA4用紙2~3枚で記入)。

#### B 行動科学入門

・ワークライフバランス:講義開始時にワークシートを配布します。講義終了時に教室内の回収箱に  
提出する。

・自身のストレスマネジメント(夏休みの課題)

締め切り:9月2日(金)17時 教務前レポートボックス

講義を通して学んだことを生かして、自身のかかえているストレスをとりあげ、そのコーピングの  
方法を提案し、実践した経験をレポートにまとめる。講義で学んだことにとどまらず、自分で調べた  
ことを実践に取り入れてもよい。

レポートは、下記の構成で記すこと。

- 1) 自身のかかえている(対処したい)ストレス
- 2) ストレスコーピングの方法
- 3) 実践結果
- 4) 考察
- 5) 参考文献

#### C プロフェッショナルリズム

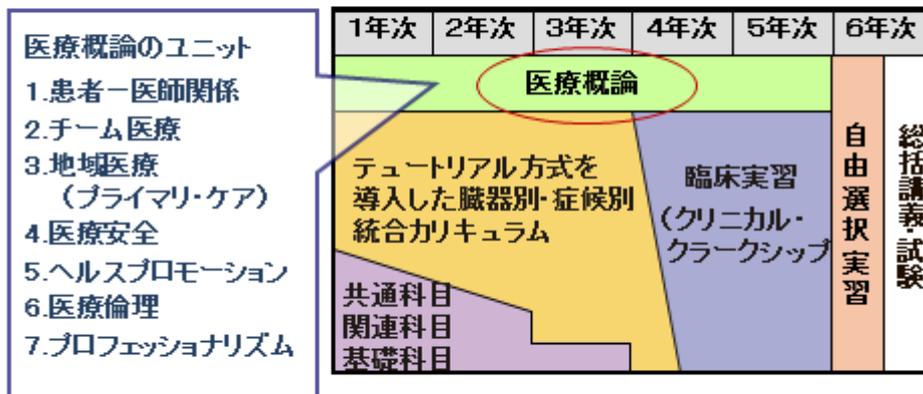
当日ワークシートを配布します。演習時の指示に従って記入し、講義終了時に教室内の回収箱に提出  
する。

## 7. 時間割

	月	火	水	木	金
	6月25日	6月26日	6月29日	6月30日	7月1日
1	総合科目Ⅰ/総合科目Ⅱ	関連科目(第2外国語(初修外国語))	第1外国語(英語)	関連科目/専門外国語/医学の基礎B	関連科目
2	総合科目Ⅰ/総合科目Ⅱ			体育実技/医学の基礎B	質問タイム(明戸大塚医院・大塚貴博) (2時限目から連続) 家庭医療とは (横谷)
3				医療概論Ⅱオリエンテーション 事例提示(高屋敷(明)) 高齢者の在宅ケア (浜野)	
				5時限 コアタイム1 6時限 グループ学習	
	7月4日	7月5日	7月6日	7月7日	7月8日
1	総合科目Ⅰ/総合科目Ⅱ	関連科目(第2外国語(初修外国語))	レポート作成	医学の基礎B	関連科目
2	総合科目Ⅰ/総合科目Ⅱ	発表会 (高屋敷、大塚、荒牧)	医師のプロフェッショナリズム 高屋敷(明)	医学の基礎B	
3	地域医療の現状と課題 (前野(哲))	総括(2時限目から連続) (大塚貴博)	地域医療の将来 (前野(哲))	ライフサイクルと心の発達 (横谷)	
4	在宅ケアにおける職種間連携 (吉本、山本)	心のモデルと行動の成り立ち (山海)	地域医療の将来 (前野(哲))	ストレスのメカニズム (山海)	
5	グループ学習 (発表準備)	ライフサイクルにおける青年期の問題 (吉本)	医師のワークライフバランス (瀬尾(恵))	ストレスコーピング (山海)	

補足(医療概論について)

## 医療概論の構成



---

**M2 カリキュラム  
医療概論Ⅱ「在宅ケア」  
シラバス**

2015 年度入学 第 42 回生  
2016 年度 編入学 16 回生

2016 年発行  
〒305-8575  
筑波大学 医学群

---